

地で
NORTHERN
ASAKUSA
読本

地域で
働く読本

タイトー
キタリズム
TAITO KITA RHYTHM



リノベーション型まちづくり
「タイトーキタリズム」特別編集

浅草北部
地域で
働く読本
NORTHERN
ASAKUSA



草北部
地で
NORTHERN
ASAKUSA

浅草北
地域で

浅草

今、浅草北部地域で
起こっていること。

日本を代表する世界的な観光地・浅草。その北方にあるエリアの温度が、今、少しずつ上がってきています。古きよき下町風情を感じられる環境がありながら、都心へのアクセスも十分に良く、それでいて家賃はお手頃。感度の高い人々がこのエリアの魅力に気がつき、この10年の間に次々と新しいビジネスを始めています。この冊子では、そんなまちを盛り上げる人々に焦点を当てるとともに、現在行われている官民連携のリノベーションまちづくり「タイトーキタリズム」の活動をご紹介します。



天然温泉 湯どんぶり栄湯
2017年のリニューアルを皮切りに次々と進化を遂げる実力派銭湯。中でも若旦那こだわりのサウナは大人気で、わざわざこのサウナをめざして遠くから訪れるお客さんもいるのだとか。

浅草北部地域は、浅草の一般的なイメージである「観光地」とは違い、まち全体に落ち着いた雰囲気があるエリアです。個人経営・家族経営の飲食店が多く、家庭料理が楽しめる庶民的なお店がそろっています。また、下町らしさの象徴ともいえる銭湯が多いのもこの地域の特徴のひとつ。台東区は東京都の中で人口・面積に対する銭湯の数が最も多い自治体ですが、そんな台東区の中で浅草北部地域は特に銭湯が多く、区全体の銭湯のうち1/3以上がこのエリアに集中しています。

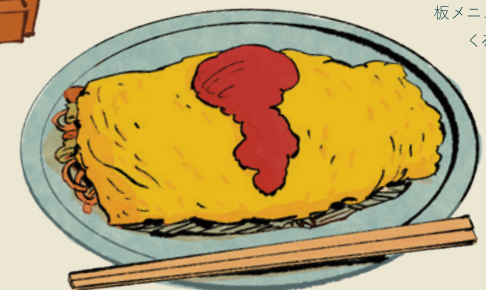
歴史に目を向けると、さまざまな文化の発信拠点となった吉原遊郭や歌舞伎の興行が行われた江戸三座(猿若三座)もこの地域にありました。一時は、日に千両の金が動くと言われた「江戸三千両(朝の魚河岸・昼の芝居町・夜の吉原)」のうち、二つが集まるとも賑やかな地域だったのです。近年では、この地域の歴史や文化を生活や仕事に取り入れながら楽しく過ごす人が増えているそうです。人を惹きつけるこのまちの魅力について、もう少し深掘りしていきましょう。

下町の文化と歴史が色濃く残るまち。



1903年創業 デンキヤホール 元祖「オムマキ」750円

初代ご主人が「屋台で見た焼きそばを卵で巻いたら…」という発想で開発したこのお店の看板メニュー。料理と一緒に運ばれてくる七味唐辛子が味変になり、ひとつの料理からいろいろな味わいを楽しめます。



浅草北部地域は、エリア内に鉄道駅がなく、一見すると不便なエリアです。しかし、自転車を使うと印象ががらりと変わり「意外と便利な、穴場のまち」に見えてきます。仮に浅草北部地域の中心にスタート地点を置いたとします。そこから自転車に乗ると浅草駅まで6分、上野駅まで13分で到着できます。お腹が空いたら個人や家族で営む個人的なグルメを堪能することもできますし、疲れたら銭湯のお湯にゆっくり浸かるのもおすすめです。このまちには都心ではなかなか味わえないライフスタイルがまだまだ残っているのです。

また、移動にはバスも便利です。都バスに乗れば東京駅をはじめとする鉄道駅にもアクセスでき、コミュニティバスを使えば区内のどこに行くにも便利です。浅草北部地域は駅近がいいという価値観だけではたどり着けない東京のエアポケット。家賃相場も他の人気エリアと比べるとお手頃で、何かにチャレンジするのにぴったりの地域です。

駅近がいいという価値観だけではたどり着けない東京のエアポケット

人気エリアと比べてみよう。

部屋	港区エリア ※1※3	北部エリア (橋場、日本堤など) ※2※3
1R	¥116,000 ~ ¥129,000	¥67,000 ~ ¥80,000
1K	¥117,000 ~ ¥130,000	¥72,000 ~ ¥84,000
1DK	¥151,000 ~ ¥171,000	¥80,000 ~ ¥94,000
1LDK	¥216,000 ~ ¥244,000	¥105,000 ~ ¥134,000

テナント ※4 参考賃料: ¥20,000 / 坪

※1 東日本不動産流通機構に登録されている平均賃料を算出しております。
 ※2 東日本不動産流通機構に登録されている「浅草駅より徒歩10~15分以内」の平均賃料を算出しております。
 ※3 築20年以内の賃貸物件の賃料(管理費などを除く)を集計し家賃相場を表示しています。
 ※4 東日本不動産流通機構に登録されている「10~20坪」までの賃貸オフィスにおける平均坪単価(共益費込み)を算出したデータです。



三ノ輪駅

日比谷線は、銀座や六本木方面に行くときに便利。

平成17年に開通。秋葉原からつくばまでを結ぶ。

つくばエクスプレス 浅草駅

デンキヤホール P02

カストリ書房 P07

SPICE SPACE UGAYA P09

上堀内美術 P08

天然温泉 湯どんぶり栄湯 P02

花屋と本屋 SANT JORDI P12

まちを楽しむマストアイテム、自転車。シェアサイクルも便利。

本品堂 P08

アイビックス P12

RENDO SHOE & REPAIR P07



台東区内の移動はコミュニティバス「めぐりん」が便利。

自転車 5min

渋谷方面に行くときは銀座線で。空港(成田・羽田)へ行くなら浅草線を。東武線に乗れば、日光、宇都宮へのアクセスも。

浅草駅



都バスに乗れば、浅草駅、蔵前駅、浅草橋駅、東京駅などの鉄道駅にもアクセス可能。

隅田川 Sumida river



NORTHERN ASAKUSA

Players Guide

温度の高いまちには、
温度の高い人がいる。

今回「浅草北部地域で働く読本」をつくる時、あらためてこのまちについてリサーチを行い見えてきたことは、はっきりとした軸をもって活動を展開する多様な人々(プレイヤーたち)の存在でした。

革靴職人、独立系書店や型染め屋、看板屋や映画喫茶からスパイス料理人まで。今回、まちを担う6組のプレイヤーの方々にご協力いただき、そこで開業した理由やまちと商売との関わりについて語っていただきました。これら数多の背景からの多様な視点をもって、浅草北部のまちの解像度がすこしでも上がれば幸いです。

SHOE MAKER 01

革靴職人



INDEPENDENT BOOKSTORE 02

独立系書店



03

TRADITIONAL DYER

型染め屋



04

SIGN MAKER

看板屋



CINEMA CAFE 05

映画喫茶



SPICE MANIA

スパイス料理人



06



01 RENDO SHOE & REPAIR

浅草は革製品の出荷量が日本で最も多い、革のまち。明治時代ごろから革靴づくりは盛んに行われるようになり、いまなおメーカーや問屋、素材や部品等をつくる工場が多く立ち並んでいる。吉見鉄平さんは、このまちで様々な工程に携わる職人たちと連動し、日本人の足の特徴にあった靴づくりを行うシューブランド〈RENDO〉を2013年に立ち上げた。

「浅草には、大都市の中心部から30分程度の距離にもかかわらず革産業の集積地があります。これは海外ではあまりない環境なのだそうです。いまの世の中ではリモートも多いなか、靴づくりにおいては、なるべく近くで直接職人たちとのコミュニケーションすることが重要になってくるんです」と吉見さん。地の利を活かし、浅草の職人たちと連動することで、洗練された美しいラインを持つハイクオリティな革靴を提供している。

地の利を活かした

ものづくり



革靴職人
吉見 鉄平
RENDO SHOE & REPAIR
東京都台東区浅草7-5-5
☎03-6802-3825
<https://rendo-shoes.jp/>

失敗しても痛くないところから

遊廓の歴史を紐解くと、その土地の暮らしや女性たちの働き方などの物語が見えてくる。つまり郷土史とほぼイコールなのだという。しかし時を追うごとにその情報は失われていきつつある。それら文化や歴史を今に伝えるべく発掘・保存し発信しているのが、遊廓専門書店〈カストリ書房〉だ。

マニアックなジャンルにフォーカスし事業を始めた店主の渡辺豪さんに、吉原のエリアでお店をひらいた経緯について伺った。「私は書店経営も出版社も未経験だったので、風呂敷広げて大成功の夢を描くより、万が一失敗しても痛くないところからやってみようと考えました。エリア一帯の家賃は安く、治安もまったく悪いと感じないですし、シンボリックな吉原という場所でやれば多くの方が気がついてくれるだろうなと思い、ここに構えることにしたんです」。



独立系書店
渡辺 豪
カストリ書房
東京都台東区千束3-21-14
<https://kastoribookstore.blogspot.com/>



Kastori Bookstore



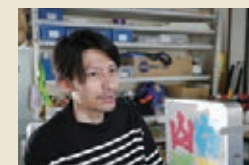
カストリ書房

04 上堀内美術 Kamihoriuchi Bijutsu

看板が彩るまちの景色

このまちを歩けば、パソコンに入っているフォントでは表現できない、多くの美しいタイポグラフィと出会うことができる。オリジナリティあふれる手書き看板や商売繁盛の縁起を担いだ寄席文字など、看板にはそのまちの景色に彩りを与える効果があるのかもしれない。

千束に事務所を構える〈上堀内美術〉の上堀内浩平さんは、文字にまつわるのなら何でも、ロゴデザインから製作施工まで行う看板屋だ。この場所である理由を伺うと「最初は〈カストリ書房〉渡辺さんからの紹介で、このエリアのお店の看板製作の仕事をしたことがきっかけでした。そこから渡辺さんにいまの物件の紹介までしていただいて」と上堀内さん。最近知り合った地域の方との看板製作の話も進んでおり、懐かしくもあり新しくも感じる、上堀内さんの手がける看板がまちに新たな息吹をもたらしている。



看板屋
上堀内 浩平
上堀内美術
https://www.instagram.com/kohhei_kamihoriuchi/

本品堂

Ponpindo



強烈な個性と文化のあるまち

下町風情を色濃く残した橋場は、工房が多く存在する職人のまちでもある。〈本品堂〉は、伝統文様を愛して止まないデザイナー大野耕作さんと、慶應三年創業の型染め屋「更銚」5代目・工藤資子さんの2人による型染め工房で、江戸の粋人たちが好んだ縁起柄を、あたたかくユーモラスなタッチでデザインした守り袋(まもりぶくろ)が主力商品となっている。

「自分たちにとって、このまちは工房を構えるのに一番最適な場所だったと思います。賑やかすぎず、工房で作業ができないほど静かでもない。台東区は小さいので、橋場から、仕事道具を揃えるため浅草橋などの問屋街に簡単に行けるのも便利です」と大野さん。「魅力は便利さだけではありません。台東区はエリアごとに、強烈な文化と個性がある。本当に面白い、唯一無二の場所だと思います」。



型染め屋
大野 耕作(左) / 工藤 資子(右)
本品堂
東京都台東区橋場1-34-2
☎03-5808-9770
<https://www.ponpindo.com/>



05 泪橋ホール Namidabashi Hall

かつて労働者の町として賑わった「山谷※」。今では高齢化が進み、静かで独特の時間が流れる町になっている。そんな山谷で映画喫茶〈泪橋ホール〉を営むのが、カメラマンとしても活動する多田裕美子さんだ。多田さんは浅草生まれ。この泪橋ホールのある場所も、かつて多田さんの両親が営んでいた食堂の隣だという。

「山谷に暮らす人々を撮影した作品集の制作をきっかけに、改めてこの町との関わりを深めたいと感じるようになりました。じゃあ何をすればいいんだろう。そこで映画という娯楽を通じて、山谷の人も、外から来た人も混ざり合う色んな人の居場所をつくりたいと思ったんです」と多田さん。古き良き名作映画やドキュメンタリー映画のほか、ライブも楽しめる泪橋ホール。もし初めて門戸を叩いた人でも、名作映画とともに、あたたかく歓迎してくれるはずだ。

※ 台東区の北東部、清川・日本堤・東浅草一帯の通称

娯楽を通じて、

人々が混じり合う場



映画喫茶
多田 裕美子
泪橋ホール
東京都台東区日本堤2丁目28-10
☎ 03-6320-4510
<https://www.namidabashi.tokyo/>

06 SPICE SPACE UGAYA

地域と紐づく暮らしと商売

「ここは地域のネットワークがとにかく強いんですよ。それで子育ても安心してできるし、商売をする上でも大事になってきますね」と話すのは、いまカレー業界で注目を集める浅草観音裏〈SPICE SPACE UGAYA〉店主の宇賀村敏久さん。デザイナーの仕事を経て、好きなことでこのまちに貢献したいと、このお店をはじめた。

「店の開業準備をしている時期に、思ったよりお金がかかってしまい困っていた時、呼んでもなかったのに地元の人たちが話を聞きつけ、内装づくりを手伝ってくれたんです」。祭りの文化が色濃くのこの浅草では、暮らしのなかでも商売でも、町会への参加など地域の人とつながりまちに貢献することで様々な恩恵があるという。このお話の最中にも、通りかかった近所の方が取材の様子を覗きにきたりと、まちとのつながりの強さを感じることができた。



スパイス料理人
宇賀村 敏久
SPICE SPACE UGAYA
東京都台東区浅草5丁目23-7
☎ 03-5849-4736
<https://www.instagram.com/asakusaspipecurry/>



このまちの温度をもっと上げていくために。

ここまで、浅草北部地域のいまの姿について紹介してきました。ここからは少しだけ長い視点でみたこのまちのこと、そしてこのまちの温度をもっと上げていくために私たちが行っているプロジェクトについて紹介します。戦後から高度経済成長期にかけ、簡易宿所の存在と労働需要を背景に発展・賑わいをみせてきた浅草北部地域。皮革産業の町工場が集積し、職住近接のまちとして栄えてきました。しかし、労働需要や産業構造の変化により、空き家・空き店舗が多く存在していたり、小売店舗数が減少してきている、そんな一面もあります。そこで私たちは、空き家・空き店舗等を活用するリノベーションの手法を用いて、このまちの歴史・文化といった地域特性を活かしながら、新たなまちのプレイヤーの活躍の場づくりや、その誘導を図っています。

場をつくり、人と人をつなぐ リノベーション型まちづくり事業について

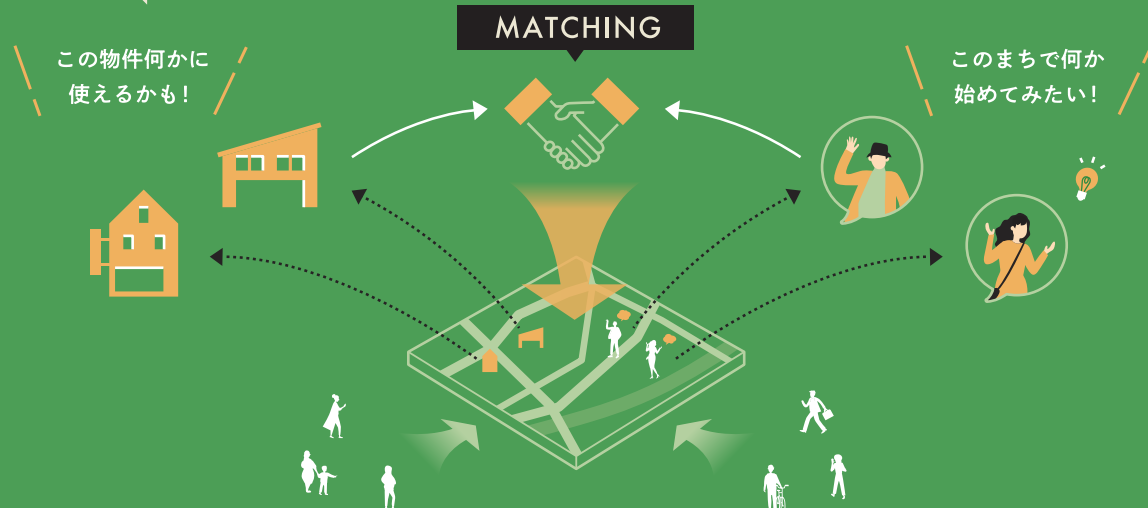


**まちづくりについて学ぶ場の企画や、
物件やスペースの活用、そして
このまちの情報発信を行っています。**

私たちはこのプロジェクトを進めていくなかで、地域の方々と連携しながらさまざまなことを行っています。たとえば、まちづくりに興味のある人材の発掘を目的とした講演会と意見交換の場「まちセッション」。地域内の路上や軒先、空き家候補となっている場所などをお借りし、そこで屋台を広げてフリーコーヒーやワークショップを行う「情報発信スペースの運用」。このまちのことを域内外の方々に伝えていくための『地域密着型メディア「タイトーキタリズム」の発行』など。これらの活動を通じてさまざまな人や世代間交流のできるサイクルを進めていきながら、空き家や空き物件と、活用したい事業者のマッチングを目指し活動しています。

**物件と面白い人をつなげて
魅力を生み出し、
このまちを盛り上げていきます。**

浅草北部地域は、台東区の中でも空き家が多い地域です。タイトーキタリズムでは、地域活動の中で出会った空き家のオーナーと、何かにチャレンジしたい人をマッチングして、「まちの新たな魅力」を生み出していきます。



CASE.01



タイトーキタリズムならではのつながりで、条件に合う物件を紹介していただきました！

市川勝也さん 花屋と本屋『SANT JORDI』

東浅草で花屋を開業するため、物件を探していた市川さん。そのことを知ったタイトーキタリズムと縁の深いまちの不動産業者が、市川さんをつなげてくれました。

タイトーキタリズムの物件ネットワークに元杖屋の物件を所持しているオーナーが居たため、市川さんと話し合いの場を設定。オーナーと市川さんが意気投合したこともあり、一度仮入居して試験的に不定期営業をすることになりました。現在は本格的な開業に向けて、準備を進めています。タイトーキタリズムのつながりで、マッチングが成立した事例です。

MATCHING STEP

- 2023年3月末 物件探しをタイトーキタリズムに相談。
- ▶ 2023年4月 タイトーキタリズムの紹介のもと、物件オーナーとマッチング。仮入居で契約成立。
- ▶ 2023年4月～2024年3月 週末のみ・月2回など、不定期でイベントを実施。
- ▶ 2024年4月～ プレ開業を実施。
- ▶ 2025年未定 本営業開始予定。

SANT JORDI 東京都台東区東浅草2丁目2-1 TEL:090-2467-1846 <https://www.instagram.com/santjordi.flowers/>

CASE.02

松原雅人さん 映像制作・編集会社『アイピックス』

松原さんは、物件オーナーから物件の取り壊しに伴う立ち退きを告げられ、急ぎで移転先を探すことに。そんななか、タイトーキタリズムをきっかけに知り合った地域住民の有志による食事会(通称「ごはん会」)に偶然参加。ごはん会はタイトーキタリズムメンバー、台東区の物件オーナー、不動産業者など幅広い顔ぶれで構成されています。そのため、松原さんの悩みを聞いたタイトーキタリズムメンバーが、入居者を探していた物件オーナー、仲介の不動産業者も交えた相談の場をセッティング。その後すみやかに入居が決まりました。台東区で物件を借りたい人、貸したい人が交流できる「ごはん会」があるからこそこの事例です。

物件探しに関する悩みをフランクに話せる場があり、助かりました！

MATCHING STEP

- 2023年12月頃 物件探し開始。
- ▶ 2024年4月 「ごはん会」に参加。物件について相談し、松原さん・物件オーナー・仲介の不動産業者の3社で話し合う。
- ▶ 2024年4月 物件を内覧。
- ▶ 2024年5月 入居決定。

アイピックス 東京都台東区橋場1-17-2 TEL:070-8905-4445 <https://ipix-co.jp/>

浅草北部地域が気になるあなたへ

INFORMATION



NORTHERN ASAKUSA

Check 01

イベント情報や、最新の物件情報 についてはこちらから

タイトーキタリズムのInstagramでは、このまちでの活動を通して出会ったステキな物件についての情報や、フリーコーヒー、ゲストをお呼びしたトークショーなどのイベントについて紹介しています！



公式Instagram
taito_kita



Check 02

浅草北部の「人・こと・情報」があつまる場所 SNAP oku-asakusa

〒111-0024 東京都台東区今戸1-2-10 JKビル1F



タイトーキタリズム
バックナンバーも
あります！

Check 03

北部地域の空き物件情報 あります！

現在、浅草北部エリアの空き家情報についてや、このまちで空き家をつかってチャレンジしたいことがある人を募集しております。「貸したいけど片付いていない...」「まちが賑わう場所にしたい」そんな物件がありましたらぜひご相談ください。借り手探し・建築相談・その場の活用法まで、一緒に考えます！



【お問合せ先】台東区 地域整備第二課

電話:03-5246-1366

ファクス:03-5246-1359

編集後記



クリエイティブディレクター
山田 裕一 (quarter back Inc.)

私たちの会社も3年前に浅草北部地域に引っ越してきたばかりですが、今ではこのエリアのカルチャーにどっぷりで、銭湯や下町グルメを楽しんでる毎日です。「山田さんいる〜?」って、突然人が訪ねてくるのにもすっかり慣れたなあ…。



チーフエディター
シバタ ロマン (quarter back Inc.)

冊子が発行される頃には、もう秋になっていますね。今回、真夏の炎天下のなか自転車で取材にまわりました。その道すがら近所の方から冷たいお茶をいただいたりして、つながりの有難みを実感した制作期間でした！



アートディレクター
木部 輝昌 (quarter back Inc.)

このエリア新参者のわたし。外からみればクラシカルな下町とイメージだったのが、不完全だけどパワーある感じに魅了され、取材と撮影をしながらこのまちがすっかり好きに。自転車で回れるのが最高ですよ。やってみて実感！



プロジェクトディレクター
柳 スルキ (HAGISO Inc.)

今回このエリアで活躍するクォーターバックさんに編集・制作をお願いすることができ、このまちにしかない魅力を今まで以上に知ってしまいました。そろそろ私も引っ越ししようかな〜。いい物件あったら教えてください。



イラストレーター
エイドリアン ホーガン

はじめまして。オーストラリア出身・浅草在住のエイドリアンです。僕はこのエリアの大ファンです。素晴らしいコミュニティがあり、カルチャーがとても興味深いです。今回のプロジェクトに参加できて嬉しかったです。

「PROJECT MEMBER」

クリエイティブディレクター：山田 裕一 (quarter back Inc.)

チーフエディター：シバタ ロマン (quarter back Inc.)

エディター：本木 翔子 (quarter back Inc.)

アートディレクター：木部 輝昌 (quarter back Inc.)

デザイナー：張 智傑 (quarter back Inc.)

プロジェクトディレクター：柳 スルキ (HAGISO Inc.)

イラストレーター：エイドリアン・ホーガン

特別協力：有限会社樹本不動産鑑定事務所
所属 不動産事業 masterkey.

台東区 地域整備第二課

電話：03-5246-1366 ファクス：03-5246-1359

発行日：2024年10月

発行：台東区

編集：株式会社クォーターバック 株式会社HAGISO